



ひなどり

園だより 5月号

令和2年5月11日

新潟市立新津第三幼稚園

新型コロナウイルス防止のための対応

園長 間嶋 哲

今年度は、入園児と保護者の皆さんだけが出席する入園式となりました。本来ですと在園児も一緒に出席させ、お祝いしたいところだったのですが、遊戯室での密な状態を避けるため、やむをえずに行った措置です。その時間、在園児はそれぞれの保育室で活動をしていました。ただ、このことによって私自身は「こういう形も有りなのではないか。全園児が、本当に出席する必要はあるのだろうか」と考えるきっかけとなりました。

新型コロナウイルス禍による様々な活動制限や、「STAY HOME」などの外出自粛などは、それ自体決して楽しいことではないのですが、それらをするによって何かに気づいたり、考えたりできるきっかけ、あるいは時間的なゆとりが生まれていくようにも思えます。

令和2年度が始まり1か月がたちました。4月23日から昨日までの臨時休園を終え、今後は5月いっぱいまでの「午前保育」となります。様々な報道もされているとおり、新潟市立学校園では「分散登校園」を原則としています。一つの教室（保育室）内を16人程度以下にし密な状態を作らないためです。例えば第三小学校では、放課後児童クラブの在籍や兄弟関係等を考慮して、同じ学級の子どもを午前グループと午後グループとに分け、それぞれ約2時間の授業を行います。

当園でも当初、その方向で検討しましたが、幼稚園の活動は午前のみとする市教委の方針や、同規模の幼稚園とも相談した結果、午前2時間だけの保育を行うことにしました。年長あやめ組は、26名が在籍しています。このままだと市の基準は上回りますが、あやめ組については、すでに通常の保育を広い遊戯室で行っています。今後、絵本の部屋にまで活動の場を広げたり、天気の良い日は積極的に外遊びをさせたりするなどで、3密を避けられると判断しました。また在籍が18名の年中もも組についても、現在空いている、あやめ組の保育室を臨時に使用し、密な状態を避けます。年少さくら組と、たんぽぽ組については、それぞれ9名、10名ですので、特段の活動場所の変更はしません。いずれにせよ、一つのクラスを機械的に2つに分けることをせず、6月から通常の幼稚園生活に戻ることができるよう、ごく自然な形で保育にあたっていきます。

ところで、連日続く新型コロナウイルス関係のテレビ報道等に、いささか食傷気味なのではないでしょうか。ウイルスを正しく恐れ、適切な対策をしていくことはもちろん重要ですが、必要以上に心配しすぎることによる悪影響も指摘されています。日本赤十字社から『ウイルスの次にやってくるもの』という動画が、ユーチューブで先月末頃から配信されています。本当に大切なことはどんなことなのかが、分かりやすく紹介されています。ぜひご覧になってください。様々に溢れている情報がある中で、本当に正しい情報だけを取捨選択する姿勢を持ちたいものです。